



(標題：中野雄一 元病院長)

## 院内で学生による舞台芸術発表会を開催しました。

11月23日(金・祝)、教育人間科学部の学生による舞台芸術発表会を開催しました。

当日は、患者さんやそのご家族など延べ230人が来場し、学生の熱演に会場は大変な盛り上がりを見せました。教育人間科学部の松浦教授と参加した学生さんから感想を頂きましたので、紹介いたします。

新潟大学教育人間科学部 松浦 良治 教授

今年度も大学病院にて教育人間科学部音楽科の授業「舞台芸術」の一環としてオペレッタ「もも、はな、かぐ、さか物語」及び「合唱」を上演させていただき誠にありがとうございました。この企画は日頃の授業成果を発表する場を求めている音楽科と入院患者さんに快適な療養生活を提供したいという病院の意向が一致して昨年度より始められたものです。

昨年度はオペレッタ「海賊船長の子守唄」を上演いたしました。終演後に患者さんから「楽しかった」「ありがとう」という感謝のお言葉を沢山いただきました。学生達はこの思わぬ反響に驚き、患者さんの心からの言葉に感動し、ふれあいの素晴らしさというものを体験させていただきました。

今年度も合唱の「ふるさと」や「小さい秋みつけた」を演奏中に一緒に口ずさんで歌われた方がおられ、大変和やかな雰囲気にならながら演奏することができました。この企画は、病院の関係者の方々から様々なことを陰で支えていただき初めて実現したもので、関係諸氏に心より感謝申し上げます。

来年度もより楽しく充実した音楽劇を持って皆様にお目にかかれる日を学生達共々楽しみにしております。

新潟大学教育人間科学部 芸術環境創造課程2年

福井 望美

「楽しかった」…それはオペレッタや合唱のメンバー全員が終演後に口にしてきた素直な気持ちです。今回やらせて頂いたオペレッタ《もも・はな・かぐ・さか物語》も合唱も、私たち学生だけではステージにはなりません。病院の皆さん一人ひとりがいて初めて、ステージとして命が宿るものです。観てくれる人との対話によって初めて、ステージとして成立するものです。11月23日の公演が成功したのは、病院の皆さんのお陰だと思っています。出演者が心から楽しめるくらい、皆さんは私たちのステージに真っ直ぐに向き合ってくださいました。耳をそばだてて真剣に聞いてくれる様子や時々聞こえる笑い声が嬉しくて、私たち学生は本当に楽しんでステージを作ることが出来ました。終演後に皆さんから頂いた「ありがとう」の言葉…心がぽっと温くなりました。私たちのステージが皆さんの心の中を少しでも温かくすることが出来れば幸いです。

ステキな経験をさせて頂き、学生一同感謝の気持ちでいっぱいです。また一回りも二回りも大きくなって皆さんのもとへ訪れることが出来ますように。♪～みんなの花よ 咲け～♪花咲爺さんがうたっていました。みなさんの心にも、花が咲くことを祈って。



学生と患者さんらによる合唱



オペレッタ「もも・はな・かぐ・さか物語」の上演

## 研修医・医学生対象 『ランチョンカンファレンス』

総合臨床研修センター

井口 清太郎

平成16年度に新医師臨床研修制度が始まって以降、医学生は大学病院以外での研修を選択することが多くなり、その結果、研修医の大学離れが進んだといわれています。大学病院での研修は、専門医が多くいるため専門性の高い疾患を診ることができる、1人の患者さんの持つ多くの問題点を解決することができる、など多くの利点があると考えています。一方、大学病院での研修は、たくさんのポピュラーな症例を経験できない、救急疾患に対応する機会が少ない、ということが短所として挙げられています。若い研修医は、早く技術を身につけ、多くの患者さんを診たい、と考えがちなのです。研修医の大学病院離れの原因の一つとして、救急疾患への対応を勉強する機会が少ない、ということがあるのではないかと考えられました。

しかし現在、大学病院でも年間2000台を超える救急車を受け入れ、1次救急も含め対応しています。各専門科の医師の多くは、医療現場で実際に救急疾患に対応してきた経験を持っています。そ



こでこの経験を生かして、研修医・医学生を対象に講義をしてもらうことにしました。平成19年4月より開始した「ランチョンカンファレンス」は、毎週水曜日のお昼休みに、「各科における救急疾患（症候から診る救急）とその対応」をテーマに30分間の小講義を行っています。また、忙しくて昼食を摂れない研修医もいることから、軽食を用意し、それを食べながら講義を受ける形式にしています。

平成20年1月末現在で計38回のランチョンカンファレンスを開催し、毎回多数の研修医・医学生の参加を得ています。通常は若手の医師が担当しますが、科によっては教授自らが担当し、研修医を相手に熱のこもった講義を行っています。ただ講義をするだけでなく、実際に手を動かす機会も設けるなど担当各科の工夫もみられます。参加者からは好評を得ており、来年度もこのカンファレンスを続けていきたいと考えています。



## 中央診療施設紹介 ④

### 摂食・嚥下機能回復部

私たちは東病棟2階の摂食・嚥下リハビリ室、と歯科外来診療棟の加齢歯科外来の摂食・嚥下リハビリテーション外来で診療をしています。「摂食・嚥下機能」は一言でいうと「食べる」ことです。「食べる」ことは栄養補給という意味合いのほか、日常生活の中ではコミュニケーションをスムーズにするツールであったり、楽しみのひとつであったりします。テレビ番組でも「食べる」ことに関する情報番組はなんと多いことでしょうか？ 反面、毎日当たり前のこと過ぎて、大切さやその複雑さになかなか気がつきません。

「休息と栄養」は療養の基本です。ただ、病気的时候は口から食べられなくなってしまう状況がたびたび生じます。このため、医療では点滴をしたり、栄養をチューブで消化管へ流して何とか栄養が枯渇しないようにします。病気が落ち着けば、たいいてい場合は元通り口から食べられるようになります。しかし、食べられない期間が長期にわたった場合や、喉や口の中の手術、食べる動きに障害が出るような病気では、今までのように当たり前に食べようとしてもむせこんだり、口の中で処理できなかつたりして食べられないことがあります。むせこみはいわゆる「あな違い」で、気道に異物が入ってしまったときの防御反応です。「あな違い」がしょっちゅう起こるようでは、むせて苦しくて食べるどころではありませんし、ひどいときには気道を詰まらせて呼吸ができなくなって

しまいます。また、本来起こるべき咳やむせや痰を増やすなどの防御機構が機能せず、知らず知らずの間に「あな違い」をすることがあります。これがつもりつもって肺に炎症を起こすこともあります。こうなると「食べる」とかえって体力が奪われてしまいます。

こういった危険を回避しつつ、「食べる」支援するのが摂食・嚥下リハビリテーションです。具体的には、口の中を清潔にし、臨戦態勢を整えた上で「舌や唇、のどのあたり」の筋力トレーニングをしたり、食べ物の形態を選んだり、食事姿勢を調節したりして「あな違い」しにくい食事の仕方を繰り返し練習します。また、入れ歯の不備や歯の痛いところがないかチェックして治療します。すべての栄養を食べて摂るのが理想ですが、病状によっては難しいこともあります。そのような場合でも患者さんにとって「食べる」ことが楽しみや気持の安定など良い効果をもつのであれば経管栄養と併用で「食べられる」方法をさがります。私たちは患者さんそれぞれのゴールを目指して患者さんを中心に主治医、看護師、リハビリテーション部、栄養管理室と協力をしてチームとなって対応しています。「おいしいね」と一緒に喜べるのが一番のやりがいです。

(摂食・嚥下機能回復部 大瀧祥子副部長)





## 病気の基礎知識

4

# 口腔乾燥症—ドライマウス—について

### 口腔乾燥症とは？

「口が乾燥している」状態を口腔乾燥といいます。これは、主に口の中の唾液が減少することによって起こるもので、「口の中がカラカラする」「ねばつく」「食事のとき水分がないと飲み込みにくい」などの症状が出てきます。また、唾液の量が減少していなくても乾燥感が生じる場合もあります。

### 口腔乾燥症の原因と検査法

口腔乾燥症の原因は、薬剤の副作用、シェーグレン症候群という免疫の病気、糖尿病や腎臓病など全身の病気、唾液腺（唾液がつくられるところ）の病気、ストレス、閉経、心因性のものなど様々です。唾液の量を測ったり、血液検査をしたり、エコー検査をしたりして原因を探ります。

### 治療法—保湿剤やマッサージが有効—

原因がわかったら、それに合わせた治療を行います。唾液分泌促進剤といわれる薬剤や漢方薬などによって唾液の分泌を改善することができます。他の病気が原因で口腔乾燥症が起こっている場合は、専門の診療科に紹介して治療を依頼することもあります。

口腔の乾燥を和らげるには、保湿剤や唾液腺のマッサージも有効です。

保湿剤には、リキッドタイプ（液体状、口の中にスプレーする）と、ジェルタイプ（ゼリー状、口の粘膜に塗る）、洗口液タイプ（液体状、うがいをする）があります。最近は、たくさんの種類の保湿剤が病院の売店や薬局の一部などで



耳下腺マッサージ



顎下腺・舌下腺マッサージ

販売されています。

唾液は、耳の前にある耳下腺、顎の下にある顎下腺、舌下腺から主に分泌されます。よって、優しくマッサージをすることで唾液の分泌を促します（下図参照）。耳下腺マッサージは、耳の前に手をあてて円を描くようにします。顎下腺、舌下腺マッサージは、顎の骨の内側を親指で軽く押し上げながら少しずつ親指を前後に移動させます。マッサージの回数や時間帯は決まっていませんので、食事前やテレビを見ながらなど日常生活の中に取り入れることができます。

唾液が減少すると、虫歯や歯周病などにかかりやすくなります。よって、口腔清掃をしっかり行うことが大切です。

新潟大学医歯学総合病院歯科には、口腔乾燥症の専門外来「くちのかわき外来」があります。お口の渴きが気になる方は、是非ご相談ください。

（予約制 加齢歯科診療室 025-227-0835）

（加齢歯科診療室 伊藤加代子助教）

## 被災地への医療支援活動に対して 新潟県から感謝状を頂きました

新潟大学医歯学総合病院では、平成19年7月の新潟県中越沖地震において、地震発生直後に、院内に災害対策本部を設置して被災地への医療支援を行うことを決定し、災害急性期の医療支援活動、避難所での24時間体制の医療支援活動、各避難所への巡回医療活動を行うとともに、新潟県や新潟県歯科医師会とも連携して心のケアや口腔ケアにも携わり、約1ヶ月間に渡り継続的に医療班を派遣し、被災地住民への医療支援を行いました。

これらの活動に対して、新潟県知事から、10月31日新潟県庁で開催された新潟県中越沖地震災害の感謝状贈呈式において、被災された方々への医療救護活動に尽力し、被災地の復旧・復興活動等に大きな貢献をしたとして感謝状が贈られました。



新潟県中越沖地震災害 感謝状贈呈式



感謝状の贈呈を受ける畠山病院長

新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ  
([http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/byouin/08\\_koho.html](http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/byouin/08_koho.html))  
をご覧ください。

発行 新潟大学医歯学総合病院  
広報委員会広報誌編集部

（お問い合わせは総務課総務係 電話227-2407, 2408まで）